

言語学 A: 文法

1 文法とは何か

1.1 言語の使用

問1 即座に返答しなければならない場合、あなたは、A. 言いたいことは十分に表現されてはいないが、言いやすいことば、B. 言いにくい複雑な表現ではあるが、言いたいことが十分に表現したことば、のどちらを選びますか？

後で返答してもよい場合、あなたは、A. 言いたいことは十分に表現されてはいないが、言いやすいことば、B. 言いにくい複雑な表現ではあるが、言いたいことが十分に表現したことば、のどちらを選びますか？

問2 つぎのことばのいずれが、思わず発話することばですか。

「うれしい」「歓喜」「痛い」「痛み」「おいしい」「美味」「あぶない」「危険」「どいたどいた!」「ご退場ください」

また、なぜそう思うのか、理由を述べてください。

1.2 二重過程理論

心理学においては以下のように、人間の行動は、2通り行動特性が見られることがわかっている。(二重過程理論 (Evans 2008, Kahneman 2003, 2011))

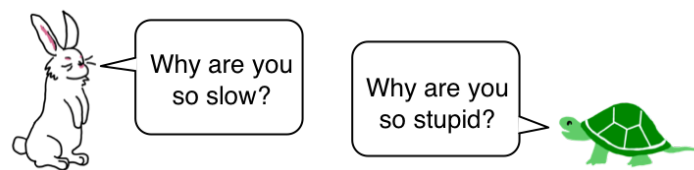


図 1: 二重過程理論: 速い思考、遅い思考

Kahneman (2011) の Thinking, Fast and Slow では、「速い思考」と「遅い思考」という二重過程のモデルが示され、直感的な意思決定と意識的な意思決定のメカニズムが詳しく説明されている。

1. システム1思考: 脳の速く、自動的、無意識的、感情的な反応。これは、看板のテキストをうっかり読む、靴ひもを結ぶ方法を知っている、または歩道の水たまりを勘で飛び越えるなどの形で現れる。
2. システム2思考: 脳がより複雑な問題を解決する際に使用する遅く、努力を要する、論理的なモード。たとえば、システム2思考は、群衆の中で友達を探したり、車を狭いスペースに駐車したり、持ち帰りランチの品質と価値の比率を決定したりする際に使用される。
3. 自動思考: 人間の思考の無意識的で本能的なプロセス。この用語は、システム1思考と同義に使用できる。
4. 意識的思考: 既存の情報を意識的に使用して、論理的に意思決定を行うか、結論に至ること。これは、システム2思考の主要な特徴である。

問3 上記の二重過程理論について、あなたの日常生活での経験を挙げて説明してください。

問4 言語使用が二重過程理論にしたがう場合、人間が発話したり、言語を記述するのに必要な文法は、1種類でよいかを考えよ。

2 日本語教育

問5 次の日本語教科書のダイアログを読み、自然であるかどうかを確認しなさい。

みんなの日本語第8課「いっしょに」

田中: 今度の 冬休みに、いっしょに 北海道へ 行きませんか。

アリ: いいですね。北海道は どんな ところですか。

田中: 冬は 寒くて、雪が 多いです。スキー場も たくさん あります。

アリ: へえ、田中さんは スキーが 上手ですか。

田中: はい、学校で スキーを 習いました。

アリ: 私も スキーが したいです。

田中: じゃ、いっしょに 行きましょう。

問6 次の会話の録音資料と教科書を比較してみて、違いを指摘しなさい。

録音資料:

A: 昼何食べる?

B: えー、何にしよ

A: ラーメン屋行こうぜ

B: 草

問7 次の LINE ①②と上記の録音資料、教科書を比較してみて、3 者の特徴を指摘しなさい。

LINE ①:

A: B ちゃん! 9月3日に蔵前でクラスみんなと夜ご飯いくけど一緒にどない? あかんかったら私と別でご飯行こう~

B: 3日多分行けるけどそれまでに新幹線動いたらって感じ笑

A: あ、関西もどってた? 台風見通せへんよなーとりあえず行けるにしないと、あかんかったら無理せず!

B: ありがとう! よろしく!

A: またラインするー!

LINE ②:

A: B 氏、5月10日空いてたら飲まん? 遅くてごめんけど@自由が丘

B: くらー。行きたいけど5/10川崎に行く用事を作ってしまったねん

A: めっちゃこっちくるやん ww

問8 次の実際にあった会話を読み、教科書と違う点を指摘しなさい。また、このような会話の特徴は何かを考えよ。

A: 次の旅行、どこ?

B: たぶん、京都。紅葉の季節、最高のタイミング!

A: いいなあ。京都、何年ぶり?

B: 3年ぶり。前回、桜の時期だったけど、秋も楽しみ!

A: お土産、よろしくね!

B: もちろん。何がいい？

A: 八つ橋！そう、生八つ橋、抹茶味。

B: 了解！

問 9 日本語教育において、文法の重要性は何ですか？

参考文献

Evans, Jonathan St. B. T. (2008) “Dual-processing accounts of reasoning, judgment, and social cognition”, *Annual Review of Psychology*, Vol. 59, pp. 255–278.

Kahneman, Daniel (2003) “A perspective on judgement and choice”, *American Psychologist*, Vol. 58, No. 9, pp. 697–720.

——— (2011) *Thinking, Fast and Slow*, New York: New York: Farrar, Straus and Giroux.